

### 総務企画委員会

市民意見交換会から

総務企画委員会に関するご意見は、概ね次の9点でした。

ブロードバンド関係の整備（地デジ対応やブロードバンド化、FMなど受信できない地域があるため）

地域審議会以後の地域自治組織（合併10年後に地域審議会がなくなるため、その後の対応として、地域の声をどのように反映させるか、ポスト審議会のあり方）

公共交通体制の充実（公共交通連携計画が提示されているが、より市民の利便向上につながる計画に）

行政と地元消防団の連携強化、及び自主防災組織の補完（自主防災のあり方と合わせて、地元消防団との関わり）

町内会加入率と地域



町内会加入率と地域

市民税、固定資産税、入湯税の税負担と今後の財政運営（税に対する受益と負担の関係）

職員数と職員給与の関係（行革に関わる職員数と給与のあり方）

各事業仕分け（無駄な事業などないか精査すべき）

これらについて、現在も引き続き調査研究しています。

閉会中の調査から

総務企画委員会は、3つの項目について調査研究しました。

新潟県上越市は、高山市と同じ平成17年に近隣町村と合併しました。合併特例として法的根拠を持つ「地域自治区」を導入したま

ちづくりについて、調査研究しました。合併特例が終わる5年後に向けて、地域振興のための地域審議会などの在り方をさらに調査研

究しています。横浜市では行政評価システム、長野県東御市では新交通システムを調査。東御市は、昼間の時間帯に戸口から戸口へと送迎する運行方式のデマンドシステムを採用している。

調査研究しました。合併特例が終わる5年後に向けて、地域振興のための地域審議会などの在り方をさらに調査研

究しています。横浜市では行政評価システム、長野県東御市では新交通システムを調査。東御市は、昼間の時間帯に戸口から戸口へと送迎する運行方式のデマンドシステムを採用している。

調査研究しました。合併特例が終わる5年後に向けて、地域振興のための地域審議会などの在り方をさらに調査研

究しています。横浜市では行政評価システム、長野県東御市では新交通システムを調査。東御市は、昼間の時間帯に戸口から戸口へと送迎する運行方式のデマンドシステムを採用している。

### 福祉保健委員会

市民意見交換会から

福祉保健委員会の所管事項は市民生活に直結しており、市民意見交換会でお聴きした声にも、生活実感が伴い急ぐべき課題と感じられる意見が多くありました。

政策討論会の討論テーマにも挙げられた「火葬場の建設」「地域

医療の確保」のほか、高齢化に伴う諸課題、高山厚生病院の存続、国民健康保険料と基金、健康増進施設の温水プール、荘川診療所の機能、と7項目について調査研究を進めました。



東御市「新交通システム」

築57年と老朽化が進む高山火葬場や荘川火葬場については現地調査しました。地域医

療の確保」のほか、高齢化に伴う諸課題、高山厚生病院の存続、国民健康保険料と基金、健康増進施設の温水プール、荘川診療所の機能、と7項目について調査研究を進めました。

療の確保」のほか、高齢化に伴う諸課題、高山厚生病院の存続、国民健康保険料と基金、健康増進施設の温水プール、荘川診療所の機能、と7項目について調査研究を進めました。

療の確保」のほか、高齢化に伴う諸課題、高山厚生病院の存続、国民健康保険料と基金、健康増進施設の温水プール、荘川診療所の機能、と7項目について調査研究を進めました。

療の確保」のほか、高齢化に伴う諸課題、高山厚生病院の存続、国民健康保険料と基金、健康増進施設の温水プール、荘川診療所の機能、と7項目について調査研究を進めました。

療の確保」のほか、高齢化に伴う諸課題、高山厚生病院の存続、国民健康保険料と基金、健康増進施設の温水プール、荘川診療所の機能、と7項目について調査研究を進めました。

療の確保」のほか、高齢化に伴う諸課題、高山厚生病院の存続、国民健康保険料と基金、健康増進施設の温水プール、荘川診療所の機能、と7項目について調査研究を進めました。

療の確保」のほか、高齢化に伴う諸課題、高山厚生病院の存続、国民健康保険料と基金、健康増進施設の温水プール、荘川診療所の機能、と7項目について調査研究を進めました。



高山火葬場視察

閉会中の調査から

子どもの発達障がい支援策について、三重県亀山市子ども支援室を視察しました。



亀山市「子ども支援室」

発達障がいなど、子育てについて悩む保護者の相談窓口として、ワンストップで対応する取り組みです。

医療・保健・福祉・教育など分野の違う専門スタッフが常に連携し、フットワークも軽く学校や保育園を訪問する中での確かな助言を行い、子ども親も職員もフォローする仕組みが確立していました。

乳幼児から成人まで、支援内容や担当が変わっても、窓口をたらい回しにされたり情報が途切れたりしない「切れ目のない支援体制」が大きな成果を挙げられています。

乳幼児から成人まで、支援内容や担当が変わっても、窓口をたらい回しにされたり情報が途切れたりしない「切れ目のない支援体制」が大きな成果を挙げられています。